

(施策評価表31)

【施策番号Ⅲ-6-①-1】

取組みの方向性	安心を実現する	戦略	【戦略6】長寿を楽しむ ～長寿を恐れない社会から長寿を楽しむ社会へ～	主な施策	◆いつまでも元気に長生きできる ～いつまでも健康で活躍できる環境づくり～
			①長寿を楽しむくらしづくり		

1 取組内容	2 主な事業 〔上段:H25事業 下段:H24事業〕	担当課	H25予算(千円) H24決算(千円)	3 平成24年度の実績	4 平成25年度の推進方針・推進状況	5 施策を推進する上での課題	6 今後の方向性
<p>・高齢者が、それまで培った知識や経験をはじめ、スポーツや芸術などの特技を生かして地域に貢献する「シルバーインストラクター制度」を創設します。</p>	シルバーインストラクター活用推進事業	高齢者支援課	— —	<p>・H24年7月に「シルバーインストラクター制度」を創設し、インストラクターの登録、利用者からの派遣申込みの受付を開始した。</p> <p>・インストラクターへの登録を競技団体等に呼びかけた結果、38人の登録があった。</p>	<p>・インストラクターの登録をさらに促進するため、引き続き競技団体を通じて呼びかけたり、ねんりんピックの出場者等に登録を促す。また、シルバー作品展入賞者等にも呼びかけ、文化系、芸術系のインストラクターを増やす。</p> <p>・インストラクターの利用についても、PR用のチラシ、パンフ等を作成し、小学校、幼稚園、福祉施設、各種サークル等に配布して事業を周知し、利用を働きかけていく。</p>	<p>・スポーツ競技はもとより、文化系、芸術系のインストラクターの登録も呼びかけていく必要がある。</p> <p>・インストラクター制度を利用してもらうため、制度を周知し利用を働きかけていく必要がある。</p>	<p>・高齢者の能力や経験が生かされ、地域・社会貢献活動が活発化するよう、H27年度までに登録者数を120人に増加させるとともに、スポーツ競技をはじめ文化、芸術等様々な分野のインストラクターの登録を促していく。また、利用についても、制度がまだあまり知られていないため、チラシの配付など様々な方法で周知を図り、利用を呼びかけていく。</p>
	<p>・子どもの頃からの健康づくり、生活習慣病の早期発見や重症化予防、健康に重要な役割を果たしている歯及び口腔の健康づくり、高齢期の介護予防など健康寿命を延ばす取組みを県民運動として推進します。</p>	健康増進計画推進事業	健康づくり推進課	5,761 2,379	<p>・フッ化物洗口実施率が、保育所・幼稚園で55.6% (H23:48.6%) に上昇した。</p>	<p>・フッ化物洗口のモデル校を各教育事務所管内及び山鹿市に1校ずつ指定するとともに、県歯科医師会と連携して歯科保健推進アドバイザーを設置し、地域や学校の実態に応じたフッ化物洗口の推進を図る。</p> <p>・一次予防に重点をおいた子どもの頃からの健康づくり、生活習慣病の発症・重症化予防対策、働く世代のこころの健康づくり、歯や口腔の健康、また個人の健康づくりを支える社会環境の整備等を関係機関と連携を図りながら実施する。</p> <p>・特に、歯や口腔の健康については、小中学校でのフッ化物洗口の実施に向け、県民（保護者）の知識や理解の向上を図りながら、県民運動として取組みを加速していく。</p> <p>・引き続き研修会等を通して市町村介護予防事業のPDSサイクル確立支援を行い、市町村における効果的な事業の推進を支援する。</p>	<p>・フッ化物洗口の有効性や安全性について県民の理解を促進するとともに、洗口を学校で実施する時間を確保する必要がある。</p> <p>・個人の健康は、家庭、学校、地域、職場等の社会環境の影響を受けることから、県民の健康づくりを支援する関係機関・団体の積極的な参加を得て、県民が主体的に行う健康づくりの取組みを支援できるような社会環境を整備する必要がある。</p> <p>・介護予防事業所が効果的な予防サービスを提供するための技術的支援を行う必要がある。</p>
特定健康診査等実施事業		健康づくり推進課	373,109 372,962	<p>・フッ化物洗口を推進するため、小中学校の学校関係者、市町村等の行政担当者、保護者に対し洗口実施までの手順や役割分担等を説明した結果、フッ化物洗口実施率が小中学校で3.8%(H23:1.1%)に上昇し、6市町村・16校(H23:2市町、5校)となった。</p>			
歯科保健推進事業		健康づくり推進課	17,598 11,406	<p>・12歳児の永久歯の一人当たり平均むし歯数が1.6本となり、年度目標(1.9本)を達成した。</p>			
歯と口の健康づくり推進事業		体育保健課	2,286 —	<p>・高齢者の口腔ケアを行なうモデル事業に参加した5施設のうち3施設で介護報酬の口腔機能維持管理加算の活用につながった。</p>			
介護予防推進重点対策事業		認知症・地域ケア推進課	13,769 10,579	<p>・熊大病院に配属されたコーディネーターを中心に糖尿病診療に携わる人材育成等を実施し、療養指導士が460名となった。</p>			
—		—	—	<p>・市町村における効果的な介護予防事業の推進のために、PDS(Plan-Do-See)サイクル確立支援に向けて、各地域振興局で市町村の取組状況等の意見交換を行い、介護予防事業の見直しができるように支援した結果、関係者の理解が進んだ。</p>			
—		—	—				
—		—	—				
—		—	—				
—		—	—				
主な施策のまとめ				<p>●H24年7月に「シルバーインストラクター制度」を創設し、インストラクターの登録、利用者からの派遣申込みの受付開始。インストラクターへ38人が登録。</p> <p>●フッ化物洗口実施率が、保育所・幼稚園で55.6% (H23:48.6%)、小中学校で3.8%(H23:1.1%)に上昇。</p>	<p>●インストラクターの登録促進のため、競技団体やシルバー作品展入賞者等に呼びかけを実施。また、利用促進のため、PRパンフを各施設等に配布。</p> <p>●小中学校でのフッ化物洗口の実施に向け、県民（保護者）の知識や理解の向上を図りながら、県民運動として取組みを加速。</p> <p>●引き続き、研修会等を通して市町村介護予防事業のPDSサイクル確立支援を行い、市町村における効果的な事業の推進を支援。</p>	<p>●文化・芸術系のインストラクターの登録促進、利用促進のための制度周知。</p> <p>●フッ化物洗口の有効性や安全性についての県民理解の促進と学校での洗口を実施する時間の確保。</p> <p>●介護予防事業所が効果的な予防サービスを提供するための技術的支援。</p>	<p>●インストラクターの登録及び利用の促進。</p> <p>●フッ化物洗口の推進に向けた市町村の理解と協力の確保。</p> <p>●要支援1、2の高齢者の維持改善率70%以上をめざし、研修会等を通じた市町村支援を実施。</p>